

## 第14回 熊本港干潟フェスタを開催しました

第14回干潟フェスタ，“干潟で遊ぼう，ワクワク探検隊!!”のキャッチフレーズで，6月8日（土）に熊本港周辺の会場に約800人もの参加者があり，大盛況のうちに無事開催する事ができました．4つのコースを設定しましたが，まず「学習コース」では，海的环境と災害，干潟の役割と再生についてのパネル展示を行い，中でも「チリメンモンスター体験」と称した，チリメンジャコの中に混じっている微小生物を虫眼鏡で探すコーナーには“ちびっ子研究者”で溢れていました．また，



たくさんの人で賑わう「干潟体験コース」

○×クイズやクイズラリーでは景品獲得で大いに盛り上りました．熊本港湾の有明・八代海海洋環境センターを会場にした「研究コース」では，海の生き物のプレートづくり，プランクトンの顕微鏡観察，アサリ貝の水質浄化パワー測定，砂の顕微鏡観察など楽しい研究体験をしてもらい，また「干潟体験コース」は，隊長先導のもと干潟の生物や泥の観察をする“探検隊”，干潟のなかを自由に遊ぶ“どろんこ隊”，干潟の泥の中を穴掘機で覗く“もぐら隊”，“野鳥の池探検”などの実体験コースで，子供たちの大きな歓声が，春の干潟中に響き亘っていました．また海域調査船「海輝」の体験乗船も大変な人気ぶりでした．学・官・産からの総勢約150人のボランティア・スタッフにより企画・立案・実施してきていますが，この「干潟フェスタ」とおして地域住民の人たちに環境を大切にする心，生き物を大切にする心を養ってもらい“元気な有明の海を後世に”という想いを伝えて行けたらと思っています．

## 「八代海再生プロジェクト」が進んでいます

八代海を再生するための研究プロジェクト「生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト」が，文部科学省の特別経費で平成23年度から5カ年間の計画で，滝川教授をリーダーとして沿岸域センターの教職員を中心としたスタッフで鋭意，進められています．八代海の海域や干潟の環境特性とその生物調査，環境の変化を予測するための数値シミュレーションや生物生息評価モデルの開発，地域特性に応じた再生と地域活性化の方策，「なぎさ線」などの環境再生技術の開発と実証試験等，14のテーマの下に鋭意進められています．今年の成果は，本通信の“お知らせ”に記載していますように，2014年1月25日（土）に開催のシンポジウムで発表します．



なぎさ線で確認された生き物達

### ○「なぎさ線」の現地実証試験地で早くもたくさんの生物が棲み始めています

むつごろう通信の22号でお知らせしましたが，本研究プロジェクトの一環として，八代港内の一角に「なぎさ線」が，平成25年2月上旬に造成されました．これは，海岸線の人工化などで失われた“なぎさ線”を回復し，連続した地形を造成して，土・水・大気の触れ合う場を作って，生態系の連続性を創出して生き物の棲む場所を創成する事を目的にしています．造成後約半年で，二枚貝，カニ類，シャコ類など約30種類の生物が確認されており，生物多様性の効果が明らかになってきております．今後，さらに生物の種類・個体数が増えるものと考えておりますが，地域の皆様にも共同調査へのご参加をお願いしたいと思っております．なお，研究成果は随時，下記のホームページに掲載致しておりますので，是非ご覧いただきたく，ご案内致します．

[http://accafe.jp/kumamoto\\_u\\_yatsushiro/](http://accafe.jp/kumamoto_u_yatsushiro/)



なぎさ線で確認されたアサリの稚貝